

梅雨期以外の梅雨型長雨について

稲垣 豊秋*

1. 梅雨期以外に梅雨型の長雨が起きることはすくないので、こういうときに予報を大きくはずす原因となる。週期的変化を繰り返している春秋のころは週期を重視するのは当然であるがその週期を破ってこの現象が現われると予報はよくはずれる。

そこでここではこの異常現象を調査したのであるが、まだ調査途上で予報の段階まで進んでいないが一応ここに報告する。調査資料は昭和10年から33年4月までの23年4カ月の気象庁縮刷極東天気図、極東天気図および台風経路図、雨については同期間の佐賀地方気象台の資料を使用した。ここに取り上げた例は4日間以上梅雨型気圧配置を示し、かつ佐賀地方に降雨があったことを条件にして選び出したものであり、はるか南方海上で梅雨型気圧配置を示していても佐賀地方で降雨がなければ取り上げてなく、また雨量の多い少ないはあまり問題にしていけないが、その期間の総雨量は3月を除いて50mm以上となっている。

2. 佐賀地方に長雨をもたらした梅雨型気圧配置の発生日

第1表に示しているように1月～2月および10月～12月の5カ月間は梅雨型気圧配置で長雨になった例はなく、8、9月は台風に関係あるものが13例中11例もあり、このため梅雨型気圧配置も非常に変形しているのが多い。この表中◎印は長雨の期間中気温が温暖型であり、○印は寒冷型であるが3、4月はいずれも温暖型であり5月は寒、暖半々で8月は皆寒冷型9月は寒暖半々ずつになっている。

以下3、4、5月の部と8、9月の部に大別して述べる、

A. 3、4、5月はだいたいにおいて同じような傾向を示し(5月後半になると多少違ってくる)、春先きの大陸高気圧が大きな移動性高気圧となって多少南偏しつつ西日本を通過して行き次第に本邦南方海上の太平洋高気圧を強化する。梅雨型気圧配置の太平洋側勢力としてのこの高気圧もこの季節には大陸高気圧の変質したもの

第1表

年	月	1	2	3	4	5	8	9	10	11	12
昭和10											
	11										
	12					20-29					
	13					○					
	14										
	15						6-13	23-28			
	16						○	◎			
	17					24-27		26-31			
	18					◎		○			
	19								15-22		
	20										
	21					19-23					
	22					○					
	23					23-30					
	24					◎					
	25								6-12		
	26								◎		
	27					10-14					
	28					◎					
	29										
	30					17-24					
	31					○					
	32								8-13		
	33								○		
	34										
	35										
	36										
	37										
	38										
	39										
	40										
	41										
	42										
	43										
	44										
	45										
	46										
	47										
	48										
	49										
	50										
	51										
	52										
	53										
	54										
	55										
	56										
	57										
	58										
	59										
	60										
	61										
	62										
	63										
	64										
	65										
	66										
	67										
	68										
	69										
	70										
	71										
	72										
	73										
	74										
	75										
	76										
	77										
	78										
	79										
	80										
	81										
	82										
	83										
	84										
	85										
	86										
	87										
	88										
	89										
	90										
	91										
	92										
	93										
	94										
	95										
	96										
	97										
	98										
	99										
	100										
合計				3	4	7	6	7			

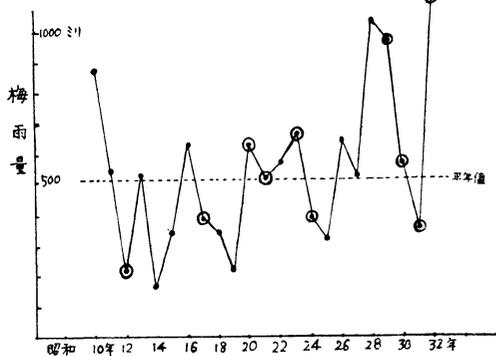
であるがその働きは梅雨のころと全く同じであり華南から南西諸島方面の南西気流を強めている。それから梅雨型となるためには前線の北側に寒気が入っていることが必要であるがその外に華中、華南方面の気圧場が低くなることが長雨となることに対して必要である。これらの条件を組み合わせると硫黄島の気圧と漢国の気圧の差を取

* 佐賀地方気象台—1958年9月15日受理—
T. Inagaki: On the Long Rains in the "Baiu" Pressure Pattern except in "Baiu" Season

って一つの Index を作ってみると、これが正になってから平均2日後に佐賀地方で降雨が始まっており、また雨量もこの Index の大きさに比例しており、これが正である限り降雨が続いている例がほとんどであった(ただし3月、4月および5月の初旬に限る)。5月の中旬以降は太平洋の高気圧が定常的に高くなってこの傾向はくずれてくる。

また3、4月の温暖型の特徴として梅雨型の始まる前に時期としては異常な寒気の流入があるのが多い(7例中5例)。ということは大陸の寒冷高気圧および移動性高気圧の勢力がかなり強いことを意味し、ひいては太平洋高気圧をよくかん養したということになる。漢国と硫黄島の気圧曲線を作ってみると漢国の極から平均して3.8日経過して硫黄島の気圧の極が出てそのころから降雨が始まっているのが非常に多い。またこれらの梅雨前線ともいべき前線が北上してきたのかそれとも南下してきたのかについては3、4月のころは南北交換が大きい時であるので(明確にとらえ難いのであるが)おおむね温暖型は北上型、寒冷型は南下型となるのは常識であろう。いずれの場合にもいえることは大きな気圧の谷が高緯度の速度のみ速くて太平洋高気圧の北側に東西にねてしまうことである。

これらの気圧配置による長雨と梅雨期における梅雨量との関係については決定的な関係はないようであって第1図に示すとおりである。すなわち4、5月ころ梅雨型気圧配置による長雨があった年は必ずしも梅雨量が多いとか少ないとかいうことはいえない。



第1図 3、4、5月において梅雨型長雨が出現した年と梅雨量との関係。○印は梅雨型長雨が出現した年次。

B. 8、9月になると大分様子が変わってくる気温の型からいえば8月は寒冷型9月は寒冷温暖いずれも半々ず

つであるが台風が大きく影響していることが特徴である。8、9月においては台風がその原因を作ったと思われるものが13例中9例もあり特に九州以西を北上し朝鮮を通過する台風が原因となっているものが多い。すなわち台風が通過して2~3日後に梅雨型気圧配置となって長雨となっているのである。台風がこれらの直接的な原因となっているほかに北緯20度付近の海上を西進する台風が太平洋の南東気流を強めて前線の活動を盛んにしているのが13例中8例もありこれも見落すことのできない

第2表

年	台風コース	A型	B型	C型	D型
昭和 10			9-9		8-28 9-24
11			8-27		
12					9-11 8-5
13					9-1
14					8-6
15	● 8-4			9-3	8-25 ● 9-18
16	● 8-24				8-15 9-6
17	● 8-16 9-13			8-15 8-27	9-1 9-19 9-21
18	8-1		8-28		9-3 9-21
19	8-18 8-3			8-8 9-17	8-7
20	8-3		9-8 9-13	8-27 9-17	8-23 8-26
21	8-15 8-22		8-1		
22					8-7
23			9-8 9-21	8-28	
24				8-18	9-1
25				9-13 9-16	8-20 9-3
26	8-24		9-30		
27			● 9-3 ● 8-18		
28	● 8-24				9-25
29			9-15	8-18 9-8 9-26	9-19
30				9-30	
31	9-5			● 8-17 ● 9-10	
32					

ものである。

台風がかくのごとく梅雨型天気の原因となっているものとするならば過去の台風のうちどれくらいが、またいかなる経路のものが影響を及ぼしているかを調べたのが第2表である。表中台風経路のA型とは遠廻り型で朝鮮北部以北を通るもの、B型とは九州西方海上を北上し朝鮮中、南部を通過するもの、C型とは九州及び朝鮮海峡を通過するもの、D型とは本州を横ぎるものの4型に分類してあり、表中の数字は同じ期間の台風の通過月日を示し●印は梅雨型の原因となった台風を意味している。すなわちA型台風においては全体の31%は梅雨型の天気

をもたらしB型では22%、C型では12%、D型では4%が梅雨型の原因となっている。しからば台風が通過して何日ぐらいして梅雨型になっているかといえは2日ないし4日で平均2.9日となっている。

3. 結 び

梅雨期以外の梅雨型気圧配置による長雨は全く異常気象であり、これは春の異常寒波の後に、あるいはまた異常高温の後に来るものが多く、8、9月の台風の後に多いというのも台風一過後の寒気の侵入に起因するものと思われる。それで予報者としてはこれらの異常気象の後に十分注意しておく必要がある。

〔支部だより〕

日本気象学会九州支部講演会

昭和33年度、第2回日本気象学会九州支部講演会は西部管区気象研究会と共催で下記のとおり行われ、約50名の参加を得て盛会であった。

なお本庁から高橋浩一郎氏、山田一氏が出席され講演をしていただいた。

記

1. 期 日 昭和33年11月5日～6日
2. 会 場 福岡県筑紫郡筑紫野町 公立学校 共済組合保養所紫泉荘

題 目	所属	講演者名	最低気候の地域性について	宮崎 荒木 一好
屋久島の雨と風について	屋久島	高橋 岩夫	蒸発散位からみた昭和33年の干ばつ	福岡 日下部正雄
九州の強風について	大分	笠村 幸雄	塩害の気象調査	長崎 菊池 繁雄
名瀬の風について	名瀬	栗林 直里	夜間輻射の測定について	鹿児島 植村 八郎
北部西部九州近海の風速	福岡	浦川 武雄	天気と輻射冷却の型について	鹿児島 植村 八郎
桜島火山爆発予測の現在までの経過	鹿児島	安井 豊 野田 義夫	月降水量の予想法	名瀬 福田 一世
桜島の地震波の速度および雑微動について	鹿児島	利光 貞夫	低緯度における台風進路の変化と本土への影響について	宮崎 今門 宗夫
九州地方の地震活動	佐賀	吉村 寿一	台風に伴う風速の分布	福岡 富島 四郎
阿蘇山噴火について	阿蘇山	山口 弘次	予報則の探究(第2報)	福岡 植木九州男
気温基準値の利用のしかたについて	福岡	保田井 勲	筑後川洪水予報法(第1報)	福岡 岡 千東 矢花 和一
福岡における寒候期の気候変動について	福岡	小島 隆義	第3次突風月間報告、海上解析	長崎 木下 正時
面積雨量の精度について	福岡	今山 正春	〃 上層解析	福岡 山田 三朗
大雨の出現度数を簡単に求める方法	福岡	土井 謙二	〃 地上解析	福岡 香原 信義
局地的豪雨や雷などのメソ気象学的研究	福岡	山田 三朗	昭和32年12月12～13日の突風解析	福岡 香原 信義
大規模な定常場の三次元的研究	鹿児島	岡村 存	特別講演 高潮の危険度の推定	高橋浩一郎
			〃 日本および太平洋上におけるジェット流の気候学的変動について	山田 一